

江戸川区が関連団体を総動員して「推進署名」を展開 何が何でも「スーパー堤防」を、と言う常軌を逸した区の悪あがきに批判沸騰

●ご注意ください！

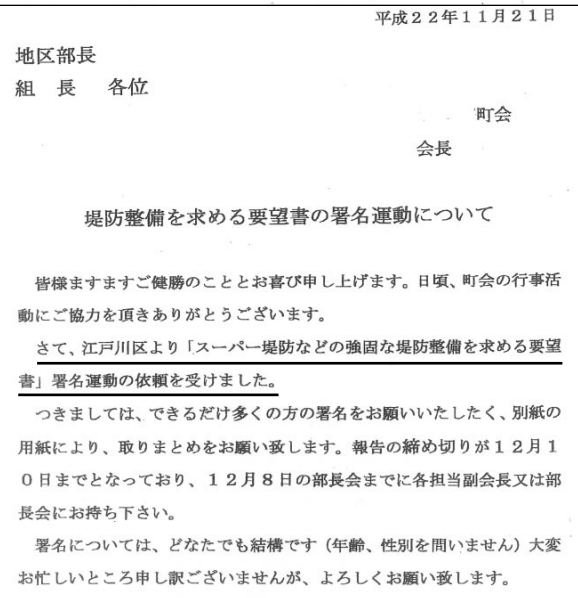
「江戸川区スーパー堤防整備促進区民の会」の要望書という署名簿が町会・商店会等を通じて全世帯に配付されています。これは江戸川区が傘下の諸団体を利用して、スーパー堤防建設を進めようとしているもので、区の圧力で推進者を増やそうと言う「お代官様」的行政で、住民から戸惑いの声が出ています。

これは10月28日の行政刷新会議の事業仕分けでスーパー無駄遣い、として「一旦廃止」の判定を受けたこと、そして11月10日のスーパー堤防建設反対の国会請願・院内集会の成功、区議会での野党全ての会派による、区の進め方に対する批判が集中し、マスコミが大きく取り上げるようになりました。

こんな中で、江戸川区は何が何でもスーパー堤防を推進しようとする、なりふり構わぬ攻勢に出てきたもので、町会等の組織を利用したものとされます。本来自主的組織である町会や自治会を利用した非民主的なやり方に、町会からも、受け取った住民からも戸惑いや、問題視する声が上がっています。

この推進要望書作成に江戸川区が関わった事実がある。
区内全世帯に撒く「費用」と「職員動員」は区の税金から？

「江戸川区より依頼を受けた」と明記した付箋を付けて署名を回した某町会。



上の文書に見られるように、江戸川区が直接関与、町会を私物化しながら強引に進めているのがわかります。江戸川区が区の職員を動員してまで躍起になっているこの促進署名について、区の生活振興環境委員会で取り上げられ、松尾課長は「署名を町会に渡してくれと頼まれたから協力した」と言いました。なお、小松川と清新町の町会では、署名には取組まない、としました。

再び区長、土木部長の江戸川沿いのスーパー堤防推進根拠の欺瞞を指摘します。(本会議冒頭の区長挨拶より)

11月25日の本会議召集の区長挨拶で、3分の1を割いてスーパー堤防事業の必要性を強調しました。(広報より) その中で「海抜0m地帯」であり、「地盤沈下は著しく」「低地帯を守るため堤防の強化は避難のため急務」で

ある「そのために北小岩東部地区と篠崎公園地区は是非ともやりたい」としました。北小岩と篠崎地区は海抜0mでなく、区は脆弱な荒川左岸の危険の論を語り、だから「江戸川は危険だ」とすり替える論法を使っているのです。